

## 総 社 市 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 会 平成26年4月24日 午前10時0分
- 2 閉 会 平成26年4月24日 午後0時16分
- 3 場 所 総社市保健センター2階 資料展示室
- 4 出席又は欠席した委員

### 出席委員

委員長	林 直 人
委員長職務代理者	米 谷 正 造
委 員	小鍛治 一 圭
委 員	下 山 洋 子
委 員	三 宅 眞砂子
委 員（教育長）	山 中 榮 輔

- 5 会議に出席した者

教育次長	矢 吹 政 行
参事兼庶務課長	三 村 和 久
学校教育課長	東 長 典
生涯学習課長	佐 近 昇
文化課長	谷 山 雅 彦
庶務課課長補佐	富 森 賢 一

- 6 会議録署名委員

三 宅 眞砂子	山 中 榮 輔
---------	---------

- 7 付議事件

議案第13号 平成26年度総社市教育行政の基本方針を定めることについて 原案可決

議案第14号 異議申立てに対する決定について 原案可決

教育委員会委員長選挙の件 委員長 林 直人  
委員長職務代理者 米谷 正造

- 8 議事の概要 別紙のとおり

開会 午前10時0分

**林委員長** ただいまから教育委員会を開会いたします。

この教育委員会には、議案2件及び教育委員会委員長選挙の件が付議されております。

では、会議録の署名委員についてであります。

会議録署名委員は、会議規則第19条の規定により、出席委員中、三宅委員、山中委員の2名をお願いします。

**林委員長** では、まず、議案第13号「平成26年度総社市教育行政の基本方針を定めることについて」及び関連のあります平成26年度主要事業について事務局から説明願います。

【事務局説明】

**林委員長** ただいま事務局から説明がありました議案第13号について質問はありませんか。

**米谷委員** まず基本方針の方ですが、ご説明いただいたように8つの柱を基にそれぞれ具体的に計画をされているんですが、学校教育の充実のところ、これ本文の方では対応して特別支援教育の推進と書かれているんですけど、この2ページの表にはないんですが、これあるんですね。というところが一点。

あと主要事業の方ですが、一つは、庶務課の方で基本計画の方で山手小学校の増築工事というのがあるんですが、これは主要事業の方には入らないんですか。去年は幼稚園で今年小学校をとういことで新たにここを加えられていますけど、方針の方に。事業としては入ってこないんですか。

**三村庶務課長** 学校の増築につきましては、今年度計画はございません。ただし、山手小学校区におきまして、自然増ではなく転入増です。市外から転入されてくる児童数が増えまして、今山手小学校の現状の施設で目いっぱい状況になっておりますので、来年度この調子で増え続けますと、教室数が不足するというので。実は新たな鉄筋コンクリート作りの建物を作るということでは間に合いませんので、常設のプレハブ教室を作る予定にしております。他ににつきましては、増築とかいう予定は今年度はございません。

**米谷委員** ということは、主要事業には、これには今載せていないということですね。

**三村庶務課長** はい。

**米谷委員** あともう一つですけど、生涯学習課の昨年度一度、スポーツ振興基本計画の見直しを伺っていて、私その時に、評価項目がいくつかあるから、その評価項目を調べる中途なので、半ばできてますが必要ですということをつぶしコメントで言ったと思うんですが、それは今年度はどうされるんでしょうか。

**佐近生涯学習課長** 主要事業のところには、スポーツ振興基本計画の見直しという言葉を入れてなかったんですけど、スポーツ振興基本計画の見直しを今年度進めていきたいと考えておりますので、ご相談させていただきながら取り組んでいきたいという風に思っております。

**山中教育長** 一つよろしいですか。さっきの山手小の件でね、今の状態で、もう来年度にな

ったら1クラス増えるんだよね。7歳児は3教室。だからここ入れておかないと駄目なのは。それとプレハブと言っても本教室と一緒に。鉄筋コンクリートだから載せて、鉄筋コンクリートじゃないから載っけないというのはおかしくて、東中も、プレハブといってもきちっとした校舎ですから、それはやはり入れておかないと消えちゃう。で、28年度には今のままの人口推計で、1年生と2年生、それぞれ一つずつ増える。その後は少し減るということなんですけども、その間に人口増があるから、転入はもう増えていますから、現実には。だから転入量を入れて至急計算して、今度の補正で出さないと間に合わない。夏休みにやらないと駄目だ。

**三村庶務課長** それでは平成26年度の主要事業の庶務課分に、山手のプレハブ教室の建設費ということで付け足していただきたいと思います。先ほど教育長の方からお話がありましたけども、このまま増え続けますと来年度で1年生が1教室、それから28年度は1年生と2年生で2教室増える見込みです。ただし、消費税の増税とかありましたので、この先この調子で増え続けるかどうかにつきましてはちょっと不透明な部分がありますが、足りなくなっただけではもう間に合いませんので、今の状態で増えるということを前提に設置をしたいと思います。それで、設置する教室数は、4教室が必要であろうと思っております。最大2教室、普通教室が不足するというに加えて、今現在特別支援学級の方を、図書の準備室とか他の部屋を改造して、特別支援教室にしておりますので、できればこの際にそれらを復元させたいと思いますので、4教室のプレハブを先ほど教育長からありましたように、夏休みに大きな音がする工事とか振動が出る工事とかをする必要がありますので、6月補正で要求していきたいと思います。

**小鍛治委員** 前々回の教育長さんの報告であったと思うんですけど、自然体験、防災キャンプを計画するようなことを何にも書いていないんですけど、何かあるんでしょうか。

**佐近生涯学習課長** 議会の方でもそういう話が出ましてですね、これから昭和地区の維新小学校、昭和小学校は過去の実績があるんですけども、そういうところの関係者に動いていただかないといけない部分がありますので、これからそういったところの調整に入りまして、できるだけやっていけるようにしたいと思っています。

**小鍛治委員** これはもう昭和地区にお願いするような形ですか。

**山中教育長** そうでないといけないんですよ。だいたい200人近くバックアップがいるんですよ。婦人会と消防団と地元の人で100数十事前にバックアップがあるんですよ。できないんですよ。機器もいりますよね。露天風呂用のドラム缶もいるんですよ、ステンレスの。

**小鍛治委員** 砂川公園を中心にして阿曾地区にも婦人会も消防団、それから総社にはボーイスカウトがありますから、そういうところを巻き込んでやれば、特に市街の人は参加しやすいんじゃないかなあと。昭和の方にまた行ってしまうか、こちらでもそういう案を出してもいいんじゃないかなあと思ったんですけど。

**佐近生涯学習課長** 昭和地区っていうのをまず考えているのが、こちらの街中よりは自然が豊かというのもありまして、議員さんの方もそういうことをおっしゃられていたということもありまして。場所はそちらの方でしますが、こちらの方の総社・常盤の子ども達もどんどん参加していただけるような企画にしていきたいと思っています。

**林委員長** 他にどうでしょうか。

**下山委員** この出ている項目の中のことで具体的に質問という形でもよろしいでしょうか。

**林委員長** 答えられる範囲で。

**下山委員** 学校教育課の方で特に3番の国際化教育のことでお尋ねがあります。PRもいろいろされているということでニュースも見ましたが、これから先、年間に3学期じゃなくて途中でもオープンスクールの計画があるかどうかということ。それから、昭和中ブロックでのイメージ教育について、どの教科ですかとか。それについての教員の増員があるかどうかとか、そこら辺の話をちょっと教えていただけたらなと思います。それからもう一件、心の教育の生徒指導体制の充実ということで、SSWの増が今年あるのかどうかということもちょっと教えていただけたらなと思いました。

**東学校教育課長** 国際化教育、英語特区の方のオープンスクールでございますが、緑豊かな1学期からと考えておりまして、今集約中です。各該当の校園から計画を出していただいて、それをまとめてマスコミ等にもまた出したいと思っております。ホームページ等でも公募したいと思っております。ちょっと聞こえてきてる中では、幼稚園は3回はしたいと。2学期の前半ぐらいまでの間に3回はしたいということです。それからですね、イメージ教育ですが、音楽を基本的に考えておりまして、体育の方をどうしようかということで今検討中です。それから教員の配置の増員の関係ですけれども、外国語指導助手、ALTですね。ALTの方はこの英語特区の中に3人。英語特区の中プラス昭和幼稚園だけで3人で回していくと。お互いに全部兼務をかけて、主に幼稚園担当の人、主に小学校担当の人、主に中学校担当の人という形で設定をしておりますが、それによって週二日以上はずっと誰かがそこに居る状態という感じで。プラスですね、国の加配をいただきましたので、英語に力を入れるということで。昭和小学校を本務として維新小学校も兼務をかけてですね、曜日によって維新小学校に行く曜日と昭和小学校に行く曜日ということで、2つの小学校に合わせて一人の常勤の教諭の増員が決まっています。それと、維新小学校の完全複式という規模なんですけれども、実際には各学年毎にばらばらに授業を進めることができるように、市費の講師を配置していて、担任に代わって4教科についてはばらばらで授業が、学年の内容が進められるような体制にしております。これも維新小学校に2人講師を配置しております。それから、中学校は英語の教諭が去年まで一人体制だったんですけども、人事異動によって2人体制にしました。プラス市費の講師、英語の教員を加えましたので、全部で3人体制で英語指導をして、その人達は小学校も兼務しますので、時には小学校を見に行ったり、場合によっては師範授業なんかもしてもらえないんじゃないかと思っております。最後にもう一人、これは時間給の英語指導補助員と

いうものを入れております。これはかつて塾等で指導した経験のある方を一人採用しまして、維新小学校と昭和小学校に年間で300数十時間だったと思いますが、合わせて。そういう形で小学校の英語の授業の補助と補強をするという形で進めていきたいと思います。それからもう一点、心の教育の推進を、スクールソーシャルワーカー、SSWですね。これは、昨年度、総社のブロックに4人体制でしたけれども、実質的にはスーパーバイザーのような人も2人入ってくださっていたので、6人ほどで進めていたんですけども、今年度も同じ規模で。少し人の入れ替わりは合ったんですけども、同じ規模です。

**下山委員** そしたら音楽は誰がするんですかね。イマージョンでするのは担任ですか。今の言われた指導教諭みたいな講師とか、加配の人とか、英語指導補助員の方がするんですか。外国語授業のことは分かったんですけど、音楽のイマージョンは誰がするんですか。

**東学校教育課長** ちょっと確かめないとはっきりしたことが言えないのですが、当然ALTは必ず入りますし、それから学級担任もいることになると思うのですが、それに兼務という形で専科の教員の方と、複数体制で授業をすることになると思います。

**下山委員** ありがとうございます。

**山中教育長** 手厚くしてあります。

**林委員長** ちょっと充実しすぎじゃないの。昭和中で3人。3人にプラス非常勤でしょ。英語関係だけでも。小学校にも行くのか。

**東学校教育課長** 時間給の人は小学校だけです。

**林委員長** でも中学校の教員プラス1人で3人でいく。

**東学校教育課長** 一人は美術も持つ教員です。

**山中教育長** 兼務です。

**林委員長** 英語って週5時間で3学年で15時間でしょ。だから一人おれば十分いけるはず。まずはやるということで。悪いことじゃないんだけど、他の学校との比較からすると、どうなのかなあとと言われるところもあるのかなあとと思うんで、その辺のところを。

**山中教育長** 結局何故加配がこれだけ手厚くなったかという、一貫教育をしようとする、どこまで中学校と小学校を取り込むのか。3年生のカリキュラムはあまりきちっとしたものはないわけですから、そういうことを連携して作っていかないといけないですから、ちょっと今年はピーク作業になるということで少し手厚くしてある。この件で、中学校は非常に不安がって1人じゃとてもできないと。なので、完全に2人になったわけじゃないんですけど、兼務で英語の免許を持った先生で、少しそういう指導力のある先生を入れました。

**東学校教育課長** 今の補強の中身とやるべきことの兼ね合いなんですけども、中学校につきましては英語の教諭が2人になったと言いましても、結局定数を食っています。今まで理科で正式な教諭が居た部分を市費に回したので、そういう事情がございます。それから、まず小学校でやろうとしていることは、外国語活動ではなくて教科英語でして、3、4年生は週1時間の教科英語を、ゼロからのスタートです。それから5、6年生も教科英語は週2時間

というペースでどんどんやりますので。しかも、外国語活動というノウハウはあるんですけども、そのレベルではなくて更に上のレベルをしていく必要があります。時間数も多いですので、6年生あたりになると中学校の内容も前倒しするような形になって、カリキュラムをゼロから作り直す作業になります。それから、そうなる中学校もどんどん前へ前へいくと、中学校3年生くらいになると、もう中学校の中身は2年生くらいでもう終わる形になるので、そうなる高校の内容も入れないといけません。総社南高校にもいろいろ協力を、助言をいただくというお話をしてあるんですけども、中学校にとっても後半はゼロからのスタートで、どういうカリキュラムにするのか、どんな教材がいいのかというところを研究開発しながら実践も同時にするので、その代わり人的配置がないと難しいだろうということを見せていただいております。

**林委員長** なるほど。当分の間はということですかね。幼稚園でやって、そしてそれが小学校に上がって行って、小学校卒業して中学校という形で、かなりの年数そういった形で。3年後に徐々に上がってきて、10年後ぐらいに、10年以上経って成果が出てくると。第一期生が出てくると。

他に何か質問等ありますか。

**三宅委員** 学校教育課の5番の幼稚園教育の充実ということで、支援の方ですね。特別支援の発達の4歳児が去年から始まったんですけども、今年に全体に広げるということなんですけれど、保育所も含めてなんでしょう。

**東学校教育課長** 保育所も含めてでございます。こども課の方が実際には担当課ということで主になっておまして、こども課と学校教育課で兼務がかかっている者が2名おります。保健師と指導主事が両方とも兼務になっているので、その辺りが連携しながら一緒に回って見ていくとか。それから、相談支援センターですかね、「ゆうゆう」の専門員の方とも一緒に子ども達の状況に応じた対応を考えてアセスメントいたしますので、幼稚園だけでなく保育園も対象になっております。

**三宅委員** 保育園の方は任意の参加なんですかね。幼稚園の方はほぼ参加が決まっているのですか。

**東学校教育課長** 昨年度は、総社市立の保育園でも施行いたしまして、こちらの認識としては、任意ですけど、保育の協議会にもご理解いただいて、全ての保育に入っていくように進めたいと思っております。

**三宅委員** ありがとうございます。

**山中教育長** ちょっとよろしいですか。今子ども子育て会議というのが去年からスタートして、関係者が集まって、その中に教育委員会もちろん入りますし、保育園の管理者も入ります。幼稚園の管理者も入ります。そこで大きな枠組みを決めてフォローして進んでいるということと、今、東課長からありましたように、こども課の保育士と学校教育課の先生を1人ずつそれぞれ兼務にしています。2人が兼務ですので、情報を共有しながら子ども達をフ

フォローしていくことができることを狙っています。こども課には子どもに関するたくさんの情報がありますので、事前に情報をいただきながら、できれば4歳児、5歳児さらに、小学校に進学してからも保育士と一緒にフォローしていくというシステムを作りたいと思っています。少しずつそういう機運が保健福祉部の中でも高まっておりまして、保健師さんの仕事が増えるのでなかなか理解が得られないところもあるようですが、こういう風に進めていけば成果は比較的短い間に出ると思っています。

**三宅委員** 実際4歳児の方のところではひっかかって、療育の方にまわって落ち着かれて親も安心されているという風な方も結構いらっしゃるんで、ぜひ進めていただきたいと思います。

**山中教育長** その続きになるんですけど、今、人のスキルでやっているわけです。情報は保育士、教員、教育委員会の各個人にあります。こういう状態から、やはりデータベース化して、システム化して、人が変わってもずっとフォローできるような仕組みにすることが非常に大事で、今、松川部長とそういうことを話しています。守秘義務の問題もありますので、こういう風にデータ管理するかとかそういう具体的なことはこれから詰めていくという、今それくらいのステージです。

**林委員長** 他によろしいですか。

**下山委員** 学校給食調理場の件で、最近給食場の異物が入っていたとかいろんな問題が出ているので、これを見たら31年度までに完成という先の長い話だなあと思ったので、なるべく老朽化した今の調理場を使わずに早めにこういうところをして下さったらいいかなあと、感想ですけど思いました。

**林委員長** 他にどうですか。

**米谷委員** 総社吉備路文化館はオープンしてどんな感じでしょうか。お聞かせいただけたら。

**谷山文化課長** はい、先ほど言いました数で、20日にはもちろん初日ということでございますので、259名の方がご来館いただきました。それも月曜日になってちょっと減りましたけども、昨日も106名の方が来て下さっておりますので、展覧会につきましては盛況。あとはこれが同じように続けばと思っておりますので、スケジュールについてはこれからまたご報告したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

**下山委員** 関連してよろしいですか。高木聖鶴先生の常設展示はこれから続くんですけど、何かこれから先もそういう風に皆さんにあの地に、大変いい所だなと思ってあそこも歩いたんですけども、来ていただくのに特別展示、何か次を考えておられますか。

**谷山文化課長** 今これはまだ詰めている段階なんですけど、現在倉敷の美術館で堀和平先生の作品展をやっておりますので、これからまた交渉なんですけど、ぜひ地元でも見ていただきたいという風に思っておりますので、こういうものを計画していきたいと。また、墨彩画なり市の所有している絵画も他にもございますので、そうしたものの積極的な展覧ということも計画したいという風に考えております。

**林委員長** とてもいい所に位置的にはありますよね。吉備路を訪れた人がふらっと立ち寄り

る。そして意外によかったなあという風に思ってもらえるようにしてもらえたらなあと思いますね。

**三宅委員** 吉備路ってということなんで、場所もいいです。子ども達の作品なんかも展示する方向だと、子ども一人につき父母が来て、爺婆が来ますので、6人は。ちょっと考えてみて下さい。

**山中教育長** 5月に高木聖鶴先生の教書展をやりますので、そこで採用されたというか、当選したというか、優秀作品はそこに展示して、という風に考えております。それがどれぐらいの期間になるか分かりませんが。

**林委員長** そうですね。図画工作美術展なんてやると、爺婆も付いてきますから。事実、中学校の吹奏楽のああいう風な定期公演なんて市民会館いっぱいになるんですから。僕あれが不思議というか。ですから非常に関心が高いね。ただ駐車場がどうなのかな。あの辺がうまくできれば。

他にどうでしょうか。よろしいですか。

**小鍛冶委員** それに関連して、今年も5月3日に写生大会がありますけども、それを出すのは文化センターさん、それは今年はどうなるんですか。展示はここを使うんでしょうか。借りるんですかね。

**谷山文化課長** この期間中にありますので、あの場所というわけにはいかないかもしれませんが、一応5月3日の写生大会というのは今年もありますので、それにつきましては、会場はほぼ同じ場所になるかなと思っておりますけども。来年以降また。

**小鍛冶委員** それこそ続いていきますから。

**林委員長** こうやって一覧表にさせていただくと、様々なことを限られた人数でやっているなあと感じますので、ぜひとも本当にそこにありますように主要事業というのは重点化を図っていかないと、言葉じゃないけど、もったいないんじゃないかと思っておりますので、重点度の高い者から順次していただけたらなあということを思っております。

お諮りいたします。

議案第13号について可決してよろしいか。

(異議なし)

**林委員長** 一部修正等ありますので、よろしく申し上げます。それでは、ご異議がないようですので、議案第13号については可決しました。

次に、議案第14号「異議申立てに対する決定について」事務局から説明願います。

**三村庶務課長** 【事務局説明】

**林委員長** ちょっと知りたいんですけど、この制度ができたのはいつからできたんですか。就学援助を児童手当に加算するという風な。

**三村庶務課長** 平成25年度。ですから、平成25年4月1日から平成26年3月まで。

**林委員長** 1年間ですよ。それを元に戻した。その間の一年分の方を加算するのをやめて



ほしいというのがこれの主旨なんですか。

**三村庶務課長** 平成25年度分の就学援助不認定分への異議申し立てです。25年度分です。

**林委員長** ただいま事務局から説明がありました議案第14号について質問はありませんか。

**山中教育長** これを戻したらどれぐらいのお金になるんですかね。遡って返すことになるわけですよね。

**三村庶務課長** この異議申立人にだけ違う条件で認定するというのは、行政の公平性、公正性を欠くことになりますので、同じように児童手当を加算することによって、不認定となった方全員を対象とする必要があると思いますが、平成25年度で見ますと、約110人。金額にしますと、約800万円でございます。

**林委員長** これ大前提としては、そういう風に改めたんだからそういった方向が望ましいのであれば、過去に遡ってという風な考え方というのは、当然それはいいですね。

**三村庶務課長** 平成26年度に復元いたしました。これは就学援助規則を改正してそれに基づいての認定、不認定になりますので、平成25年当時は、平成25年当時の規則に基づいて認定・不認定をしておりますので、遡って支給というのはできないという風に考えています。

**山中教育長** この規則自体が、国の法律とか理念に反しているということでもやはり同じことが言えるんですかね。反してないんだったらいいですが、反してるのかどうか。

**三村庶務課長** 就学援助規則の改正の際には当然そういった違法性があるかどうか検討がなされていたという風に推測しております。ですから、違法性はないという風に、私考えておりますけども、ただ、不当な処分だったかどうかということになりますと、判断が分かれるものがあるんじゃないかという風に思います。

**林委員長** 内容についてはどうですか。こういった制度そのもので、異議申立書を出して、それを教育委員会で論議するというのは今までであったんですか。

**三村庶務課長** 調べた範囲ではございません。

**林委員長** ないよね。だからこれは初めてのケース。その辺の法的なこととかの裏づけがあつてのことでしょうけど。どうでしょう、委員の先生方。

**米谷委員** 110名の該当される方の中の1名だけが不服を申し立てられているということですね。

**林委員長** 仮にこれで不服があれば、今度は裁判になるんですか。

**三村庶務課長** 一応行政不服審査法に基づく審議については、この決定書を出すようになりますので、次はその行政不服審査法から離れて、裁判の手続きに入ると思います。

**林委員長** 粛々と則つてやるしかないんじゃないかなあと私は思いますけどね。おそらくこれまでも事務局の方から説明はされてるんじゃないかなあとと思います。本人に対してね。なおかつ、それでも納得がいけないという形なんじゃないかな。

では、お諮りいたします。

議案第14号について可決してよろしいか。

(異議なし)

**林委員長** ご異議がないようですので、議案第14号については可決しました。

**林委員長** 次に、「教育委員会委員長選挙の件について」事務局から説明願います。

【事務局説明】

**林委員長** ご意見はありませんか。

**小鍛冶委員** 教育委員会制度が来年から大分変わっていく、この一年は非常に重要な1年間になると私は認識しています。ですから、こういったときですから委員長になる方は委員長を経験されている方のほうがいいと思いますので、他の委員の方のご意見がありましたらお願いします。

**林委員長** 無記名投票ではなく、話し合いによってということになりますか。

**下山委員** 同じ意見です。今年1年はとても大変だと思うので、委員長経験者といったら絞られてくると思うんですけど。

**山中教育長** 継続していただくのが一番良いのではないかと思うんですが。大変ですけども。

**林委員長** 職務代理者についてはどうでしょうか。

**小鍛冶委員** 同じ理由で。経験者が良いと思います。

**林委員長** 委員長及び委員長職務代理者の選挙については、指名推選によりたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議ないとき)

**林委員長** ご異議がないようですので、指名推選により行います。

それでは、委員長において指名いたします。

委員長に私，林を，委員長職務代理者に米谷委員を指名したいと思います。

これにご異議ありませんか。

(異議ないとき)

**林委員長** ご異議がないようですので、次期委員長に私，林を，委員長職務代理者に米谷委員を選出いたしました。

なお、任期は、いずれも平成26年5月12日から平成27年5月11日までの1年間となりますので、申し添えておきます。

それでは、委員長及び委員長職務代理者にごあいさつをお願いします。

【委員長・委員長職務代理者あいさつ】

**林委員長** 次に、教育長の報告をお願いします。

**山中教育長** 前回から今日まで大きなテーマといたしますか、イベントといたしますか、新聞でもテレビでも随分出ましたけども、教育問題懇談会の中で、頑張る学校応援事業の検討会がありまして、市町村教育長と県の教育長との懇談会だったんですけども、市町村の教育長か

らは、学校に直接そういうご褒美的なものを出すのはいかがなものかと、端的に言うと反対するという意見。それから、もしそういうお金を出していただけるのであれば、市の教育委員会に出して欲しい。これが大半の意見でありまして、特に、ある市からは非常に厳しい意見があつて、こういうご褒美を与えるというような施策が子ども達にどういう影響を与えるのか、教育のあり方として正しいあり方なのかという根本的な問題提起がありました。それが4月21日です。昨日校長会でも同じようなことを県の教育長は説明したようですけども、反応はもっと厳しかったという風に伺っております。ただ、県の教育長はもう方針は変えないと言っておりますので、その辺が問題かなという風に認識しました。4月21日の、先ほど申し上げた教育問題懇談会というのは、市町村教育長と県の教育長が懇談する場なんですけど、今回はちょっと時間をとってですね、午後に5つのグループに分かれて、課題セッション、課題のディスカッションがありました。その課題とは別にこの頑張る学校応援事業についての是非をもう一度議論したんですけども、その時には各グループに県の教育委員の方が一人ずつ参加されました。私のグループは倉敷市と一緒にいたんですけど、その梶谷さんという委員さんですけど、県と市町村教育委員会がもっと連携を密にしないといけない。意見交換をきちっとやって、その上でこういう議論を、具体的にどうするかということを決めるべきだと発言がありました。極めて当たり前の話ですけども、そういうことで、非常にコミュニケーションが悪いなということを知りましたというご感想でした。この会の最後に、中島教育委員長、この方は県の教育委員長ですけども、言われたのが県が市町村の教育委員会と意見交換をきちっとして、議論をして、それから施策を決めることが大切だ。きちっと連携をして、それとPDCを回すというのが成果に繋がると、端的に言うと、そういう言い方をされまして、極めて稚拙なやり方だと言われたに等しい状況でありました。それでも変えないという意向なので、どういうことになるのか。玉野市は方針を変えないのであれば、もらわないという基本方針は変えませんと言っていますので、非常にややこしい状況かなと。実は明日、岡山県都市教育長協議会があるんですけども、これも一つのテーマになるんじゃないかと今思っております。

それからもう一点は、昨日全国学力テストがありました。県のテストも一緒にあつて、この総社市独自のテストも小学校5年生と中学校2年生で行いました。この結果発表は少し遅れるので、できれば極力事前に採点をして、弱いところを補う授業をしてほしいという風に校長先生方をお願いはしております。5年生はこの前やったのですか。

**東学校教育課長** はい。

**山中教育長** 5年生はやる予定だったんです。中2と小5ですね。これは先生方が年度始めに子ども達の実力を把握しておきたい。何が良いか、どこが強化するべきかどうかというのをこれから反映したいということで。そういうことで、今度は市独自で実施いたしました。

それからもう一つは、問題行動の実績が出たんですよ。東先生、それ公表していますかね。

**東学校教育課長** 速報値を。

**山中教育長** 記憶している範囲で申し上げますと、不登校が一番のキーワードだと思います。小中学校ともよくなっています。小学校は今年が0.35でした。平成21年は0.35、22年は0.32、23年が0.55、24年が0.45。ですからここ3年間はずっと減っていて平成20年、21年レベルに戻ったということです。中学校は2.05ですかね。2.11ですかね。

**東学校教育課長** 2.11です。

**山中教育長** 2.11でした。で、平成20年から見ますと、3.19、3.17、3.63、3.04、2.31と。これも3年連続で減少している。今やっております「誰もが行きたくなる学校づくり」が非常に効果が出てきていると認識しております。学年別は多少差があるんですけども、冒頭にも東課長から話がありましたように、今、小学校で不登校になる児童というのはだいたい1、2年生が多いんですけども、そこにアクションをとるためには幼稚園だということです。それともう一つは、中学校は減ったとはいえ小学校よりだいぶ多いんですね、その段差をどういう風に減らすかというのがこれからのテーマ。その一つが小中一貫というのも一つの手段としてあるという風に認識しております。

それからもう一点はですね、これは本日の午後ですけども、校長会の予定ですが、会の後で、市長が意見交換をしたいということで、市の概要を30分くらいかけて説明されて、その後、校長先生とディスカッションしたいということです。こういうチャンスはできるだけ持っていきたいと思っております。今度制度が新しくなってもですね、市長部局との連携といいますか、情報交換、コミュニケーションというのは非常に大事ですから、これを定期的にやれるような仕組みを考えたいなと思っております。以上です。

**林委員長** ただいまの報告に対してご質問等ございますか。

**小鍛冶委員** 小学校1、2年生の問題行動、幼稚園と小学校が今プリアサポートとかで交流がありますけども、私の息子もこのたび小学校に入学したんですけども、話の様子を聞いていますと、先生のギャップというんですか、生徒が先生が怖いというんですかね、やっぱり幼稚園の時の先生とは全然レベルが違うので萎縮してしまっているという感じで、いろんな所でそういう話が保護者の方から話が聞こえてくる。その辺の人事のことなので難しいと思いますけども、やっぱり幼稚園の間に小学校の先生と交流ができるような回数が少ないんじゃないかと。もう少し多くあれば解消できるんじゃないかなという風に感じました。

**山中教育長** 今、プリアサポートとか、小学校の子ども達と一緒にいるところは行ってるんですけども、小学校と幼稚園は授業のやり方と子どもとの距離感とか接し方というのは差があります。幼稚園は子どもとの距離が本当に近いですから、小学校で急に変化がある。それで小一プロブレムなんですよね。同じことが中学校にも言えるんですけども、その段差をどう減らすかという、先生方が行き来をする幼小の連携をするというのは、ずっと言ってきたんですがなかなかうまくいかないで、今考えているのは、誰もが行きたくなる学校づくりを幼稚園に入れる、そこで、例えばサテライト研修と一緒に勉強するというか、グル

一歩学習もやりますから、そういうことで面識ができ少し出入りがしやすくなると、相互交流もしやすくなる。そういうことを目論んでいきたいと思っています。なかなか行けといっても忙しいと言って反発がある。ですから、うまく仕掛けを作っていくということが大事だと思っております。認識はもう仰るとおりです。

**米谷委員** 関連して、例えば僕この間入園式で維新幼稚園に行ったんですが、小学校が横にあって、気さくに駐車場を借りて小学校の人に開けてもらったりとか、そういう物理的な場所によってそういう違いがあるんですか。やっぱり行き来がしやすいので子ども達にもそういう影響が出ているとか。

**山中教育長** 私の印象だけ言いますと、物理的な問題だけではないと思います。非常に近いんですけども、接していてもなかなかそういうことがないという風に仰る幼稚園の園長さんもいらっしゃる。だから、意図的にそういうことを言っていかないと駄目です。それをやるには「誰行き」というのは、ちょうどいいという風に思っています。小学校の先生も、幼稚園でもサテライト研修をやりますから、そうすると幼稚園に行くわけですよ。そのプログラムを計画の中に組み込んでいくというのを考えています。それを繰り返していくと、もうちょっと交流がよくなると考えています。相手の顔が見えると抵抗が少なくなる。

**小鍛治委員** 特に井尻野幼稚園と中央小学校は近くて、小学校のプールに入りに行ったりとかそういうのは本当にあるんですけども、いざ蓋を開けたら全然交流がないというような。

**山中教育長** 子ども達は比較的時間をかけてやれば、回数増やせば、ピュアサポートで面倒見るんですけども、先生との関係は仰るとおり、私が申し上げたようなことをやらないとなかなか難しい。その先生に当たるかどうか分かりませんしね。

**林委員長** そういうこともあるんですね。

**東学校教育課長** はい。たくさんあるんですけど絞ります。例えばですね、幼稚園の生活はチャイムがない。で、小学校に上がった時に、やっぱりそういう周りの状況がよく分かりにくい発達障害のような子が、チャイムがぱあーっと鳴ったら皆が一斉に起立しだすとか、皆が一斉に席について何かを始めるとか、そういう動きが理解できない子がいるというのを聞いたことがあります。そういう小学校の教員にとっては当たり前のことであっても、そういうところから丁寧に分かるように教えていくということも大切なんだなと。その辺りから不安やストレスがぐっと溜まって本当に学校が嫌になることも実はあるように思いますし。今仰ったように、幼稚園の子どもにとっては小学校の先生は怖い。私は中学校出身なんで、小学校から上がってきた子が何であんなに中学校の先生は怖いのかな、怖いというか恐ろしいという経験はありますが。その辺は本当に、幼稚園で子どもがどんな生活をしているのかというのを、小学校の先生ができるだけ足を運んで知ることによってそういう違いが分かるし、ギャップをどうやればなめらかにできるかということも気づくと思いますので、幼稚園の取り組みを知るといことを今年は進めていきたいと思っています。それから、ユニバーサルなアプローチとして、例えば幼稚園の手洗い場の上の天井のところに熊とかリスとかウサギ

の顔の絵が貼ってあるんですね。何のことかと思ったら、うがいをする時に、その動物が見えるところまで顔を上げてガラガラとやってぺっとしましょうということを、言葉とか文字で教えたり知らせたりでなくて、そういうやり方でやると子どもは自然にできる。すごい工夫だなあと思います。そんなところを小学校の先生が学んでいくというのは、そういう子ども達への対応がよりよくなると思います。「誰行き」を通してそういうことが学べたらと思います。

**林委員長** 小学校の教員から言わせればですね、小一プロブレムで問題があつてですね。子どもにとってみればそうじゃなくて、本当に恐怖教育という感じのものを持っているのかなあと思いますけど。以前からそれはずっと言われておりましたですね、やはり受容保育の中でどういう風に、つまり遊びを通してというところで子どもの主体性というのを真ん中に置いてやると、どうしても窮屈な感じが小学校はしますね。それに合わせようとする先生方もやっぱり責任を感じてですね、やっぱり椅子に座らせないといけないとかいろんなことが起こってきて、それがやっぱり恐ろしさになっていっているのかなあと思いますけども。そのところはなかなかスムーズな形ではなくてガクツとなつてしまつて、やはり中1ギャップと同じような感じで小一ギャップにもなるという風な形で現れていっているのかなあと思いますけども。そのところは「誰行き」と合わせて考えていかないといけないのかなあとと思いますね。貴重なご意見をありがとうございました。

**林委員長** 次に、「報告事項等」であります。事務局から報告事項等がありましたら、お願いします。

【事務局説明】

**林委員長** 他に報告事項等はありませんか。

**富森庶務課課長補佐** 【職員の市章の着用について報告した】

**林委員長** 他にございますか。

**東学校教育課長** 【学校評価書について】

**林委員長** これ前回見てくださいという依頼があつたと思いますけど。

**小鍛治委員** ちょっと気になったのはですね、学校関係者評価者というのが人数がばらばらです。それで中には、どういった方かという役職が書いてないところもあつたりします。そういうのも明記した方が見る方としては分かりやすいのかなというのと、それからこれ非常に細かく順番に書いていただいているんですけども、一つの統一した表というんですかね、それをこちらから渡してそれに則って各学校が記入していただくような方法にする方が見やすいんじゃないかなあとそういう風なことをまず思いました。それもできればICT化というんですか、元のソフトじゃないですけど、表みたいなものを渡して、それに各学校に打ち込んでもらつて、それで、見る側としては全部統一して見れるような。その方が評価しやすいんじゃないかなあと。それから戻りますけど、評価者の人数というのも、大変多いところと4人ぐらいのところがあります。これもある程度多い方がいろんな意見も集まるんじゃないかな

あとと思いますので、人数も最低何人ぐらいはお願いしたいですというようなこともあった方がいいのかなあということは思いました。以上です。

**下山委員** 大変な資料で、私も現職の時には自分のところ以外のところはあまり見たことがなかったので、いろんなことを頑張られているなということはずごく感じました。それでやはり、皆さん学校でいろいろ実態に合わせて取り組みを工夫されたり、教職員もチームを組んだりプロジェクトを組んだりして、すごく共同して働かれているというか頑張られているということがすごく実感としてというか感想を持ちました。そうすると学級経営以外にも仕事は増えているので、教員もゆとりがないだろうなということも感じて、増員もいろんなことでいろんな部署に必要なだと、教員の増員の必要も感じていました。それで、関係者評価委員でもないし、第三者評価委員でもないし、何も具体的には言えないんですけど、今の小鍛治委員さんの話とちょっと関係するんですけど、小中幼の連携と言いながら、関係者評価委員が被っていない、その小中幼というのが割とあるので、できたら幼稚園の評価委員さんが小学校にも何人か関わるという形ですれば、幼稚園でああいうことをしているのが小学校でこう活きているのだとか、小学校でこうしているから、幼稚園で小学校入学までにこういうことをしたらいいんだとか、何かその関係者評価委員の人がダブっていることが、連携という良い方向に行くのではないかということも感じました。それから、評価書も、ブロック内ぐらいで情報交換をするといいいかなということを感じました。されているかもしれません。学校経営書なんかは、ブロック内で交換したりとか話し合いをしたりすることもあったので、評価書の交換もあつたらいいかなということも感じました。それから幼稚園の方も見るの初めてだったんですけど、幼稚園はどうでしょうか。小学校との交流も幼稚園によってはいろいろ違うと思うんですけど、多いところ少ないところあるようですし。それから学校支援ボランティアというのが幼稚園にあまり学校ほど入られていないのではないかなということも感じたので、地域のボランティアを生かすという形で幼稚園にも入られてはどうかなというのをそれを見て、知らないんですけど幼稚園のことでは感想を持ちました。大まかにはそういうことでした。

**三宅委員** お話を聞いていて、やはり統一したマニュアルがあった方が、こことこことこつていうところで自分達の評価が分かっているいいので、自分達の各学校とか幼稚園それぞれの評価をつき合わせてどこが評価されているのかというのが分かった方がいいかなというのはちょっと思いました。

**米谷委員** それぞれの全ての園、小学校中学校を見て、それぞれの地域特性がよく出てるなあという風に思いました。これは地域と評価委員の人達と関わりの中で学校というものがあるので、当たり前なのかなと思うんですが、非常にその地域に合った細やかな工夫がされて、ここまでされるのかというような、非常に先生方のご努力が読んでいて身にしみました。あと、ほぼ項目が違っていても、よく言われる「確かな学力、豊かな心、健やかな身体作り」ということを基本に置いて、それを地域とどういう風に連携をとりながら活かしていくかと

いうことをどこの園学校でもやられていたんですが、それにつきまして評価委員の方々は非常に生産的で協力的というか、そういうご意見が多数あって、そういうご意見をいただけると、先生方も学校も取り組みやすいなという反面、その方以外の地域の方にいかにそれを伝えていくか、同じような気持ちになっていくかということがたぶん一番大変なところかなと。その過程も特に一番大変なところかなというところで、先生方の情報発信の努力というのも今回の報告書を見させていただいて、いろいろ工夫されているなという風に思いました。あと最後にですが、中にいくつか特別支援の必要な子ども達についての項目があったんですが、今回資料をいただいて、後で説明があるのか分からないですけど、この中に特別に支援の必要な子ども達の人数も書かれていますよね。中学校が幼小中とそれぞれ上がっていくんですけど、小学校のトータルが191に対して中学校がたぶん全部で単純には倍すれば中学校の人数になるのかなと思ひまして、中学校の方に極端に少なかったというか、たぶん50名ぐらい少なかったと思うんです。ということは、別途支援学校に行つての数字なのか、あるいは増えているのかということになると思うんですけど、そうなる今後学校の先生方の負担というのもまた増えるのかなということが、この報告書を見ながら感じさせられたところです。以上です。

**林委員長** ありがとうございます。私も、こういった様式を作つてやったことを見ながら思い出したわけですけど、やはりこういうことを作ること自体が、私はある意味、校長としては整理することでなかなかよかつたなと個人的には思っています。ですから、こういう風なことで振り返りをして、次の課題を見つけて、じゃあどうするのかということを考えるのがやはり必要だなあと思つております。それから、やはり教育委員会との歩調をうまく合わせるといふんですかね。同じ目標を共有して、そして取り組みをします。ただしその取り組みの仕方については、各学校様々な取り組みがあつていいだろうということですね。その辺のオリジナリティを尊重しながらしていくということですよ。非常に価値のあるいいことじゃないかなあと思つております。私も、実は倉敷市の学校評議員の評価者というのを2校しているんですけど、ここまではないです。総社の方がはるかに学校の取り組みとか進んでおひまして、いいんじゃないかなと。ただ、あんまり要求しますと過度な負担になってしまいますので、その辺の頃合いというのは考えてあげていただければ非常にいいんじゃないかなあと思ひます。以上です。

**東学校教育課長** 大変貴重なご指摘をいろいろいただきありがとうございます。今日校園長会があるんですが、今日すぐ整理してお伝えできるかどうか分かりませんが、なんらかの形で校長先生、園長先生にお伝えをして、より有効な取り組みになるようにやっていきたいと思ひます。本当にありがとうございます。

**林委員長** 他によろしいですか。

**下山委員** 質問したいんですけども、以前きらめき交付金ですかね、3校決めましたが、その発表の時の反応とか、それから今ちょっといろいろ話を聞くと、「落ちた」とか、「落ち



たけどもう始まっているからやらないといけんのよ」とか、いろいろそういう話も聞いたりして、「なんとかお金をつけてもらいたかったな」とか、いろんな話も聞くんですけども、その時の皆さんの反応とか、今の動きとかありましたら何か教えていただけたらと思ったんですけど。

**山中教育長** 私が聞いた範囲で言いますと、3件だから初めから順番的に落ちるだろうなと思っていました。でも頑張ったんだから何かちょっと欲しかったなという意見があったので、申し訳ないと言いました。そういう意見を市長に伝えました。市長はプレゼンテーションを見てないんですよね、時間もないからですけど。非常によかったと口頭では伝えているんですけど、そういうコミュニケーションが非常に大切だと思います。

**小鍛治委員** プレゼンに来られていた議員さんの一人が、入園式でお会いしたんですけど、池田はどうでしたかと言われてましたから、やっぱり印象が。

**山中教育長** まあいろんな意見があるんですけども、結果に対してご褒美をやるというやり方はちょっと教育にはいかなものかと僕は思いますので、こういう部分にもうちょっとお金を出すということが、300万に削らずにやっていたら全部渡せたんですけどね。そういう風に市長には言いましたけど、査定で削られちゃったんでね。諦めずにそういうことを言い続けていきますけど。

**下山委員** ありがとうございます。

**林委員長** 庶務課長の方には何か上がっていませんか。

**三村庶務課長** 直接には聞いていません。

**山中教育長** 落ちたところには謝るとききましたから。

**林委員長** 初めての取り組みということで、いろんな反応があって、おそらくいい反応があればもちろん批判的な反応もあると思いますが、想定内ですけどね。要は子ども達のためにいい方向に活用していただけたらありがたいという風に思います。

他に何かございますか。

**佐近生涯学習課長** 【平成25年度の授業の成果物について報告した】

**林委員長** ありがとうございます。ちなみにこの浅尾騒動で蒔田氏は結局どうなったんですか。

**佐近生涯学習課長** まだ蒔田氏の子孫というのがいらっしゃるようなんですけど、詳しくはお手伝いいただいた方にも聞いてみます。

**林委員長** すみません、読めばよかったです。

**佐近生涯学習課長** 何か読んでいただいてわからないことありましたらうちを通してお答えをさせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

**林委員長** それでは、次回の教育委員会の日程についてであります。既にご承知のとおり、5月20日午前10時から開催いたしますので、ご参集願います。

この際、6月の教育委員会の日程を調整いたしたいと思いますが、事務局から提案願いま

す。

(6月の教育委員会について日程調整)

**林委員長** では、6月の教育委員会は、6月23午後3時から開催いたします。

これで、審議がすべて終了いたしました。

以上で、本日の教育委員会を閉会いたします。

閉会 午後0時16分